

事業者排出量削減報告書

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都府綾部市城山町8番地								
氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	綾部エンブラ株式会社 代表取締役工場長 北村 保								
事業者の主たる業種	工業用プラスチック製品加工業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者(大規模エネルギー使用事業者(原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者(大規模運送事業者(トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者(その他の温室効果ガスの大規模排出事業者(二酸化炭素に換算して3,000トン以上))								
計画期間	平成20年4月 ~ 平成23年3月								
基本方針	エネルギー消費効率の改善により、3.5%の温室効果ガス削減を主とした、総合的な環境負荷低減活動を目指す。								
推進体制	工場長をトップに環境ISO14001を推進し、省エネルギーおよび廃棄物削減計画および月例進捗管理を実施している。								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	環境マネジメントシステム名称	ISO 14001							
	適用範囲	綾部エンブラ(株)							
	取得年月日	2002年1月18日取得 2008年1月18日更新							
	措置内容								
温室効果ガスの排出量等	年度	設備、対象、工程等							
	22年度	ITハンドリングユニット	外気冷房のさらなる効率向上を目的として外気取り入れ量を増やし、冷温水機の燃料消費量を低減する。						
	22年度	成形機・焼成炉	新ライン焼成炉から部屋への熱拡散を防止して空調負荷を低減し、冷温水機の燃料消費量を低減する。						
	22年度	トランス変圧器	最も古い変圧器2台を更新するにあたり、最も高効率なATM変圧器を導入し、受変電設備の電力を低減する。						
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	排出区分	基準年度(実績) (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度(実績) (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
	A 事業所等排出区分	3,375.0 t	3,257.0 t	-3.5 %	3,438.6 t	1.9 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	*1 3,375.0 t	*2 3,257.0 t	-3.5 %	*4 3,438.6 t	1.9 %			
	実績に対する自己評価	ここ数年、生産量の減少によるものも含め、著しくCO2の排出量が減少してきたが、2010年度に事業規模拡大のために大きく生産量増加となったため、大幅にエネルギー使用量が増加し、最終的に目標を達成できなかった。CO2削減に対する努力は継続しているが、2010年度から「(株)」の工場が傘下に入り、この分のエネルギー消費量が増加した。また、生産品目の構成が大きく変化し、エネルギー原単位、CO2原単位共に悪化する結果となった。このあたりについては、生産量の換算方法を検討していく必要がある。							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)	報告年度(実績)	増減率(実績)		
	工場	二酸化炭素換算 生産量(千本)	5.342	5.156	-3.5 %	6.450	20.7 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価	今後予測される、エネルギー原単位の良くない製品群のエネルギー原単位をいかに改善するかが鍵になってくる。								
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度(計画)			報告年度(実績)				
		取組量等	(二酸化炭素換算)		取組量等	(二酸化炭素換算)			
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t	(発電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量)	t	(削減量)	t	(購入量)	t	(削減量)	t
	削減量等合計			*3 t		*5 t			
	差引排出量 (排出合計・削減等合計)	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)	報告年度(実績)	増減率(実績)			
	*1 3,375.0 t	(注) (注) 3,257.0 t	-3.5 %	(注) (注) 3,438.6 t	1.9 %				

注1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標(生産量、延べ面積、走行距離等)を記入してください。  
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度(計画)」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度(実績)」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実施、特定プロセスなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。